

めざす子ども像 心身ともにたくましく、自分を大切にし、

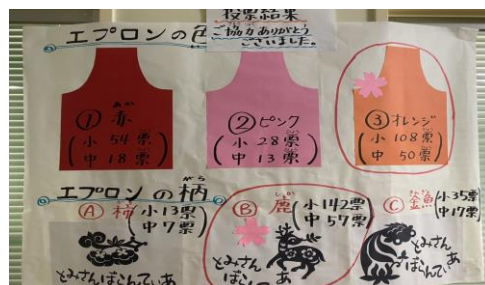
他者を思いやる子ども

取組目標 子どもたちと地域の大人たちが直接関わる中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の大人たちは自己有用感を感じる事ができるようなウィンウィンの関係を築く取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

コロナで学校へ出向くこともはばかれた雰囲気があり、活動が中止となっていた中、学校から正門前花壇への花苗植え付けの提案がありました。ずっと活動が休みの状態であったので、募集に対しボランティア参加は少なかったのですが、再び子どもたちと地域の方が関わることができました。ジョーロの使い方がよくわからない子がいたり、少し根の土をほぐして植え付けてあげる事等興味深く聞き、きれいに整備できました。

また図書のカバー付けや補修、見守り活動も実施できました。その中で、ボランティアの方とよりわかりやすくするためにも活動時エプロンを付けてもらうことにしました。エプロンの色とデザインは、子どもたちに投票で決めてもらいました。



【今年度のまとめ】

コロナ感染予防のために、実施できる内容や日程も、とても限られることとなり活動が激減した中で、本当に学校が必要とする支援について考えることができました。

また学校に地域の人材が入らせてもらえることの喜びと、地域の人材が学校に来てくださることが貴重なことであり、ありがたさを強く実感する一年となりました。

【来年度に向けて】

学校 HP への活動掲載、地域へのボランティア情報開示などを再開し広報活動をできるだけ戻すことで、現在登録されている方のモチベーションを保ちながら募集をしていきたいと考えます。

安全な形での活動を目指し、令和2年度に行うことができなかった記念行事などに対しても、学校園と連携し模索工夫しながら行い、新しい学校園支援活動の形をつくりあげたいと思います。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども

取組目標

子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナ禍のため、計画していた事業がほとんど実施できない状況ではありましたが、地域の方々のご協力をいただき、工夫をしながら学校環境の整備などを児童生徒と共に行うことができました。花の苗植えはもとより、普段何気なく通っている校門付近の溝掃除など、感染症対策を講じながら協働する場面に生徒の生き生きした姿が見られました。また、キャリア教育の一環で、講師の先生を招き、マナーについての講習会を学年の目的に応じて実施できたことは大変有意義でありました。定期的なコーディネーター会議等学校と地域の打合せにおいて教育課程に照らして活動の見直しを行い、ねらいに沿った活動の設定となるように協議を重ねました。地域の方から「できるときに できることを できるひとが」という形での支援が広まり、持続可能な活動への見直しの機会となりました。



【今年度のまとめ】

環境整備支援や読書活動推進等にボランティアの方が参加してくださいました。コロナ禍のためたくさんの方の制約のある中、工夫をしながら生徒と地域の方が出会い、ふれあい、経験をすることで大人も子どももこの地域での存在意義を少ない機会ではありましたが強く意識することができたように思います。実施できない事業がたくさんあったり、ボランティアの方に来校いただけない期間があったりしましたが、学校と地域が話し合いの場をもって「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性も見えてきました。

【来年度に向けて】

ねらいに沿った活動を効果的に実施するため、めざす子ども像を学校と地域が共有し、共に達成感のある事業内容を工夫改善し、継続していくことが大切であると考えています。また、新しい生活様式に対応する事業の視点を持ちながら計画することが必要で、めざす子ども像である「心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども」を地域と共に実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域の中での有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、**他者を思いやる子ども**

取組目標

子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちや、地域の皆さんの安全を第一に活動の見直しを行いました。

環境整備活動として、委員会活動の時間に地域のボランティアの方の協力を得て、校門前に花苗を植えました。これまでガーデニングの経験の少ない子どもたちがボランティアの方からのアドバイスを受けて、作業を進めました。

学習補助として、感染症対策を講じながら家庭科の実技支援をいただき、子どもたちが安心して活動することができました。またゲストティーチャーとして直接対面での支援が難しい場合は、学習に使用する地域学習の資料提供をいただき、子どもたちの学習が深まりました。

活動が制限される中、地域の方から「できるときにできることを できるひとが」という形での支援が広まり、持続可能な活動への見直しの機会となりました。



【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。コロナ禍のためたくさんの制約のある中、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。実施できない事業がたくさんあったり、ボランティアの方に来校いただけない期間があったりしましたが、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有でき、今後に向けての方向性も見えてきました。

【来年度に向けて】

今年度は活動が制限されましたが、地域の方より「来年こそはもっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。ねらいに沿った活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点を持ち、めざす子ども像である「心身ともにたくましく、自分を大切にし、他者を思いやる子ども」を地域と共に実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域の中での有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

地域の教育力を生かした幼小中連携教育
—豊かな心を育み、たくましく生きる幼児の育成—

今年度の取組紹介

みんなであそぼう

地域の方々や保護者に協力していただき、キャリア教育の一環として「みんなであそぼう」をしました。忍者になり様々な修行に挑戦。挑戦するためにはチケットが必要で、修行ごとにチケットのポイントが異なるので、「あと200ポイントあるから100の修行2回できる」など自分の手持ちのチケットをどのように使ったらいいかを考えながらいろいろなゲームや遊びを楽しみました。困った場合は地域の方に自分の思いを伝え相談する姿が見られました。



わくわくダンス（リズム体操）

地域でインストラクターをされている方を招いて、音楽に合わせて楽しみながら体幹・バランスを鍛えていこうと計画しました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、「リズム・拍」を体で感じ、最後の日には子ども達が考えた簡単な創作ダンスを講師の先生と共に、保護者に披露しみんなで楽しいひと時を共有することができました。



今年度のまとめ

- ・地域の方々や保護者に協力していただき、コロナ禍の中でも様々な事業に取り組む中で、子どもたちは、たくさんの感動体験を味わうことができました。その中で、「楽しかったね。」「もっとやってみたいなあ。」と次につながる意欲が生まれてきました。
- ・様々な地域の行事が中止になる中で、奈良西養護学校とリモート交流、人数制限やディスタンスを図る工夫をしながら、身近な人とのかかわりをしていくことにより、自分の住んでいる地域が大好きになり、その中でやさしさや思いやり、相手の気持ちに気付く心が育ってきました。

来年度に向けて

- ・園児が減少していく中、感染予防対策をとり、地域の支援や保護者の協力をいただきながら、様々な人とのかかわりを大切に、コミュニケーション能力の向上に努めていきたいと思っております。また、運動能力を高めたり、創造力を豊かにしたり、人を思いやる気持ちを育んだりしていくために、多様な経験を多く取り入れていきたいと思っております。